

国語科（国語表現） 学習指導案

日 時 令和2年9月15日（火）1限目
場 所 商業科2年3組教室
対 象 商業科2年3組（女子14名）
授業者 汐満 奈々子
教科書 改訂版 国語表現（第一学習社）
履修単位 3単位

1 単元名 「文章を書く意味」 轡田隆史

2 生徒の実態

活発なクラスで授業中の発言もあるが、発言する人が限定されていたり、設問に対する自分の答えをなかなか書けず、答えを待っていたりする傾向がある。また、授業に対する個人の理解に差もあるため、発問の工夫を心がけると共に机間巡視や一人一人の発言を求める機会を適宜設ける必要がある。

3 単元設定の理由

本単元である「文章を書く意味」には、最初に言語の起源について筆者の考えが述べられている。また、文字の特徴や機能、身の回りにおける言霊信仰の例なども述べられており、生徒たちが普段使っている言葉や文字について考えることで、言葉への自覚を持たせると同時に、興味・関心を持たせる文章になっている。さらに、この単元には「なぜ文章を書くのか」という中心的な問いがある。生徒たちは授業や課題等で「文章を書かされている」という気持ちになりがちである。しかし、日常生活ではメールやSNS、インターネット等の急速な普及により、「文章を書く」いわゆる「書き込み」という行為は確実に増加している。人は何かしら考え、感じたものを言葉にし、文章として相手に伝えようとしている。つまり、文章は人間の精神を表していることに他ならない。またその一方で「文章を書く」ことが「自分を再発見するための手段」であること、「歴史と文明に参加すること」も認識させることで、今後の社会生活へとつなげられる単元であると考え、設定した。

4 単元目標

- (1) 言語の起源、文字の特徴や機能、言霊信仰の例を考えさせることを通して、言葉に興味・関心を持たせる。【関心・意欲・態度】
- (2) 人間の祈りや願い、考えや意見といった精神活動が形となって表れたものが文章であることを理解し、お互いに共有する。【話す・聞く能力】
- (3) 「文章を書く」ことには、「自分を新しく発見するための手段」「歴史と文明に参加する作業」の二つの意味があることを理解させる。【知識・理解】
- (4) 感覚や感じたことを文章にすることで、感じたこと、考えたことが明確になる過程を実感させ、文章を書くことの意義を意識させる。【書く能力】

5 単元（学習材）の評価基準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	言葉の特徴や決まり、役割などについての理解を深め、知識を身につけている。

学習活動の具体的評価基準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
人類が「言葉」や「文字」がどのように獲得していったかを、筆者の文章を的確に読み取りながら把握し、自身の「言葉」や「文字」のとらえ方を見直す。	自分の意見をまとめ、目的や場に応じて効果的に相手に伝えたり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを深める。	相手に伝わる適切かつ効果的な「言葉」で文章を書き、自分の考えを深めていく。	「言葉」の意味や特徴、決まり、役割などを理解して語彙を豊かにする。

6 単元の指導と評価の計画

時	学習活動	単元の評価基準	評価方法
1	・段落分けをする。 ・形式段落①～②を読み、ワークシートに語句を書き込む。	関心・意欲・態度 知識・理解	・音読 ・ワークシート ・発表
2	・前回の復習 ・形式段落③～⑤を読み、ワークシートに語句を書き込む。	関心・意欲・態度 話す・聞く能力	・音読 ・ワークシート ・発表
3	・前回の復習 ・形式段落⑥～⑩を読み、ワークシートに語句を書き込む。	関心・意欲・態度 書く能力	・音読 ・ワークシート ・発表
4 本 時	・前回の復習 ・形式段落⑪～⑮を読み、ワークシートに語句を書き込む。 ・「忌み言葉」を考える。	話す・聞く能力	・音読 ・ワークシート ・発表

時	学習活動	単元の評価基準	評価方法
5	・前回の復習 ・形式段落⑯～⑳を読み，ワークシートに語句を書き込む。	関心・意欲・態度 知識・理解	・音読 ・ワークシート ・発表
6	・前回の復習 ・形式段落㉑～㉓を読み，ワークシートに語句を書き込む。	関心・意欲・態度 話す・聞く能力	・音読 ・ワークシート ・発表
7	・前回の復習 ・全体の復習として「学習二」に取り組む。	関心・意欲・態度 書く能力	・音読 ・ワークシート ・発表

7 本時の指導

(1)教材名

『文章を書く意味』 轡田隆文 【改訂版 国語表現（第一学習社）】

(2)本時の目標

言霊信仰が現在にも生きていることを再確認するとともに、「忌み言葉」を知り，相手に伝える表現を考える。

(3)本時の評価基準

評価の観点	具体的な評価基準	評価方法
話す・聞く能力	・相手と自分の意見を共有し，自分の意見を伝え，相手の意見も取り入れながら考えている。	・ワークシート ・ペアワーク ・発表

(4)本時の展開

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	10分	・前時までの学習を振り返る。 ・「崩し字」の確認。 ・本時の目標と流れを確認する。	・本時の流れについて見通しを持たせる。	・ワークシート

展 開	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人が言霊に頼っている例を挙げながら、日常生活の中の「忌み詞」を挙げる。 ・「忌み詞」を別な表現に変える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えるよう指示する。 ・机間巡視し、アドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・ワークシート
	20 分	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた「忌み詞」や考えた表現を、他の人と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで共有し終わったら、別なペアの人とも考えを共有し、メモを取るよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク ・話す・聞く能力
終 末	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・考えた表現が、一般常識として通用する表現かどうか確認する。 ・なぜ「忌み詞」を別な表現に変えるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表